

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



編輯 森野上野市長
發行 山田縣田上野市長
印刷 森野上野市長
郵政 山田縣田上野市長
電話 山田縣田上野市長

まことに絹紡織時代

碓氷 茂

「生絲二十万担の滞貨」
餘り聞かされてあきあきしてゐる言葉だが、何とかしてこれを片づけて了はなければ我が蠶絲業が八方ふさがり眞暗闇だ。そこで當業者は勿論國をあげてこの滞貨生絲の處分に血眼になつてゐるといふわけだ。中には「太平洋へ沈めて了へ」とか「焼き棄てろ」とかいつてゐる者もあるが、この議論は最も徹底してゐるだけにそれだけその實行は徹底的に不可能でもある。

それは兎に角、現今この二十万担を片づける方法としては生絲の内地消費と海外販路の擴張とに皆の意見が一致してゐる。そこで内地消費は勿論、海外販路の擴張に當つても、半成品たる生絲のまま處分するよりも完成品たる絹成品に於て處分する案が最近最も有力になつて來てゐる。例へば絹靴下の製造、絹洋服地、絹ネクタイ等々、一々數へあげてゐたら制限がなからう。

多事だ。およそ現今ほど絹紡織界の人士が活動を要求されてゐる時代はあるまい。現今ほど絹紡織界のかくれた研究の發表が有効に役立つ時代は又とあるまい。實に絹紡織界が、我が紡織界に、その存在を最も巨大に足跡づける時代は現今を以て外にあるまい。現今はまさに絹紡織時代である。

が紡織界は、絹紡織の研究に全勢力を傾注するものと信じて疑はない。更にこの方面の研究論文のどしどし發表されるであらうことも確く信じて疑はない。（一九三〇・一二・一八於東京めじろ）

松村季美氏よりの通信（續）

(3) 繭は生繭と乾燥繭との販賣方法あり、多くは組合發達して乾燥繭組合により販賣す。市場販賣は繭賣なり。

(4) 上簇は空氣乾燥するが故に取扱上の注意等排はずして解序可なり、日本の苦心談を語らば、恐らく夢物語と思ふべし

3 Senola di Sefitico (Como Italy)

本校は Como 町に在り、蠶絲專門學校に類似するも寧ろ織物學校と言ふが可なるべし Prof. Pinchette によりて理想の學校に建築上げられしものにして、蠶兒飼育、製絲、織物、染色に至る迄の學科を教授する状態、甚だ上田蠶絲專門學校に類似す。恐らく範を本校に學びたるなるべし學校に接して Museum あり美しき Design ある諸種の織物を陳列す。

本校の主眼は實際に役立つ Technical words を養成するを以て目的とするが故に實習、實驗に特に重きを置くを認む。校内にて織上たる模様美しき布等は希望に實費販賣を許しあり。

農家の如し。
(g) Mont Pellier (France) 10x
1 Lambert 氏訪問
氏は高等農學校教授の職を辭し今や老齡の爲自宅に於て研究に従事す。氏を 32 Rue Aiguillone に訪ひしに心より迎へ呉れ Lyon の生絲検査所長に紹介状を下されたり氏は遠視にて字體等明瞭に認め難きやに思はるゝにも關らず、机上には多くの専門書を積み有りて學者らしき所感ばれたり。峯村氏の事、本多氏の事瀧川氏の事等思出で語られたり

2 J' Ecole Nationale D' Agriculture 訪問
學校長は Vidal 氏にして同心よく學校の内容を語る。後書記長 Sean Barol 氏の案内にて校内を參觀す、養蠶部 Maillet 氏逝き Lambert 氏辭し今や秋寂の感ありき。新學期には何れよりか教授を頼して養蠶の講義をなし貴ふ様話されたり。本校は一般農學の修得を目的とする農業關係の最高學府なれば本邦の農科大學に相當す（西歐には農科、工科等 Univers と云ふもの無し）支那南、佛、南亞等の學生多きは注意すべき現象とす。

(h) Ales (France) 11x
1 Station sericicole d' Ales (Gard)
本所は 1897 開始 Moziouacai 第一回所長なりしも現所長は Secretan 氏なり新設備をなし、大なる意氣込を以て衰滅の危機に臨める南佛の蠶業に一大革新を興へんとしつゝあるを壯とすべきなり。所長と今一人は Moziouacai の娘が研究員なり栽桑養蠶品種改良並中央亞細亞、

及南亞等より蠶品種を入れ膨大なる
營圃をなすものにつき

醫學用絹絲(一種のテグス)製造につ
き鋭意研究申して次年度に發表す
る意向を物語れり。同所長の談によ
れば桑樹の病氣としては単に根部に
一種の菌類の寄生するもののみなり

蠶の品種は絹の質を可良ならしむる
が爲に Cevennes Var の如く内地
種のみを交雑をなし伊太利の如き
交雑型式を採用せず、蠶病は Flac-
herie Grasseire 有り Carino は

少し、繭は乾燥によりて販賣せしむ
る所謂 Cooperation の組合により
て經營する様奨励せり飼育方法に關
する小冊子を印刷し養蠶家に配布し
つゝありしも、内容極めて簡略なり
2 Laurent de l'Arboussiere

(蠶種製造家・製絲家)

氏は當市に於ける主要地位の人物に
して貴族に屬する人の如し。佛國に
ては (de) の付く名稱の人は多く貴
族なりと、夫かあらぬか佛人として
は應接極めて威厳あるらしき態度を
示し無口にして笑顔を示すことなし
瀧川氏は約一ヶ月以上同家に就き製
絲法等を習ひたりと語られたり。蠶
種製造と製絲とを行ふ。絲價暴落の
爲製絲の損失大なること、日本製絲
の價格低落の爲佛國迄迷惑を蒙る
事等語られたり。

蠶種製造は Pyrenees, Les ares.
Var. 地方の山部に於て行ふ、此地方
(ales) は良き蠶種を作るに不適當
なりと、伊太利と同様山間部斜地冷
涼にして桑樹發育良好なる場所のみ
分場地として選びつつ有り。日本内
地にも蠶種を輸出しつつ有り、種繭
用の桑は3-4年採葉せざるものを用

ゆ。一般養蠶家に飼育せしむるは
Plane pur chinece oro x giallo,
pur var 等にして純粹種を繭繭用と
して飼育せしむる所興味あり。白繭
は製絲の際屑絲多しと同氏は言へる
も、概念的のものに非ざるか。

同氏製絲場を見る
約30釜なり、女工は何れも通勤にし
て町内附近の農家より來る。一日八
時間労働なり。年齢は15才以上にて
妙齡の婦女子多し。八口どり。接緒
器使用二釜に對し一人の煮繭女工あ
り。工賃一日 12franc (約96錢) 何の
女工も同様なり。此の點は基本邦の
賃銀支拂制度と趣を異にす。一時間
平均 80gr を繰絲しつつあり乾燥器
は伊國 Bianchi 式を用ひ、6時間
にて乾燥を終ると男工としては火夫
と工場管理者(老人)二名のみ、他は
全部女子にて能率をあげ居れり。

工場内は電気仕掛にて排濕裝置あ
り直揚式なれど排濕に留意せり。
(1) Valence (Drome France) 19/10
1 office Nationale Sericicole

佛國唯一の蠶絲業改良組合中央會事
務所を訪ふ。所長 Maurice Messier
氏多忙の身を以て、極めて懇篤に同
會の内容、事業等説明し下され且自
動車にて約五里田舎なる同會の事業
依託農家に案内し下されたり。

同組合の内容の詳細は之を省略せん
も要は官民一致の蠶絲業改良組合に
して如何にせば危機に瀕せる佛國蠶
絲業を救済し得るかを研究すると共
に養蠶家と製絲家との協調を計りて
繭價の協定を爲すを主目的とす。

顧問に蠶業試験場長、農事試験場長
等を置き主体は一般農業者を以て組
織し、製絲家養蠶家、農業者養蠶家

織物業家の組合代表を以て代議員と
し理事長及理事に官民、適度に混合
せる代表者を置き事務所は Nalen
oe なり。内容的に養蠶業の機械化を
計畫して栽桑、催青、飼育、蠶種製造
に至る迄大規模的に或は機械力、
或は電力使用によりて模範的經營を
試験しつつあるも、其の方法の内容

場所、等秘密せり。一方之に反して
養蠶業の合理的實際化を計畫し、極
めて經濟的方法を採用し原始的に之
を採用しつつあり、即ち農家物置の
改築 Restaurant の二階の改造、舊
家等の修繕によりて適宜なる飼育室
を作造し、試験場等の研究成績を基
礎として飼育を施行せしめ(依託飼
育形式) 以て其の實際化を計畫しつ
つありて此の二途を以て何れに出
づ可きかの試験中なる如く視察せり
此の内容につきては本邦に於ても相
當參考すべき事多しと思推するが故
に項を更めて、追つて(或は歸朝後)
報告せんとす。

2 蠶業改良組合員の訪問
Messier 氏の案内にて經濟的、合理
的、養蠶經營依託者の自宅を訪問す
訪問箇所、五軒、Valence より約
五里を隔てたる Rhone 河近き
Barthemy sur vals 地方にして此
地方は 3-4 Hectare の土地を有し
牛、山羊、豚、鶏、アヒル、兎等を
飼養し麥、葡萄、Asparagus、牧草
モロコシ、等を栽培し、養蠶を行ふ
耕転は牛又は mule を使用し農耕は
何れも機械力によれり。蠶室は普通
の室を少しく改良して氣抜窓等を設
置せるに過ぎずと雖も是等依託農家
自進して夫等の改築を行ひ試験的に
養蠶を經營するの點、他動的なる、

且つ保守的なる、農家を有する、本
邦の一部地方とは甚だ趣を異にする
を見る、組合員 Pipard 氏 Rozier
氏等は篤農家の模範なりと言ふ。同
氏等は自己の蠶業を喜んで案内し且
他の組合員の住宅も紹介し下され
り。
(1) Lyon (France) 14/10-15/10
1. Condition de Soies 訪問
所長 J. Testenoire 氏自ら案内し下
され絹絲標本陳列室を見る、絹絲生
産の蠶類並之に關する標本全部より
集められたるを見る、南亞等の興味
ある野蠶繭の陳列あり(多功繭) 講
習部ありて冬期三ヶ月、同所に於て
絹絲織物に關する講習を行ふ。同所
研究報告は1934年に第一巻を出し、
以後現在に至る迄3巻の報告を發行し
内容相當専門家の參考となるべきも
の多しと認む。検査所内の検査方法
は參觀を許可せず。
2 1 Institut des Recherches
Agronomiques 訪問
22 Avenue Clemenceau St
(Genis Laval)
Lyon より一里内外隔る所にして所
長は Pallot 氏にして昆蟲研究所な
り、同氏不在、次席技師 R. Pussard
氏の案内を受く、梨類の害虫、絹繭
布の害虫驅除等に就きて詳細なる實
験を施行しつつあり
3 France Bussan (三井物産)
(Lyon, 1 Rue de la Republi-
que) 15/10
中村倉太郎氏に會し生絲實行狀態を
尋ねるに當市の織物業者も絲價暴落
の爲破産するものありと、支那絲は
賣れ行くも、日本絲は賣れず、養蠶
經濟調査參考書を送る事を約して別

れたり。
(E) Geneve (Swiss) 16/10-18/10
(以下簡略す)

1 國際労働事務局 (Internation-
al office) "Si vis pacem. Colere
sicam" 「平和を欲せば正義を培
ふ」の標語の下に生れ出たる機關な
り。
年一回5ヶ國の政府使用者及労働
者の代表者總會行はるるもの及年四
回はるる労働理事會及當府に當置
せられたる本事務局なり。現職員
總員總數 399 局長は有名なる佛人
Albert Thomas 氏なり。局長の下
に副局長其の下に四部あり(管理
部、調査部、情報、連絡部) 豫
算年約 350 萬圓なり本邦職員は鮎澤
殿氏、10年(事務局設置以來)近く就
任せし出井盛之、上井義雄兩氏、之
に加はり活動と研鑽を続けられつつ
有り。同所に就き農業労働關係調査
出版物全部を講入試験場宛發送し置
く

2 國際聯盟事務局 (Office of the
League of Nation)
總長、副總長、事務次長三名有り、
本邦は松村陽太郎氏事務次長たり。
情報部に上田金雄氏あり、米國、ラ
ジール、ロシヤ、トルコ、アラビヤ
等は加盟せず 出版物は佛英兩國語
に限り會議の使用語も右二ヶ國語に
限る、(労働局同)、之に對し獨が
抗議しつつありと言ふ。報告の Cat-
alogue を買て歸る

3 國際労働機關帝國事務所
現所長は市內務省社會局監督課長吉
阪俊藏氏にて其の下に職員四名あり
所長は常に國際労働理事會、國際勞
働總會に於ける、日本政府代表を兼

兼
る、日本政府代表を兼

と

Maison Royale, 46 Quai des Eaux Vives, Geneve に事務所有りて日本政府と國際労働事務局との間に在りて聯絡交渉の任に當る。

(j) Bern Swiss 20/x

1. Physiologische Institute.

2. Chemische Institute.

3. Anatomische Institute.

視察す始めて未だ實驗等開始せられず動物の呼吸作用を研究しつゝあり

(m) Zurich (Swiss) 21/x

1. Chemische Institute

2. Forestry & Agriculture school

3. Natur wissenschaftliche Institute

4. Chemische Technische Institute 及び Chemische Technische Institute の設備、廣大にして實驗的の事項の進捗を見る

(n) München (Du tschreich)

23/x—25/x

有名なる Zoologische Institute = Hertwig, Frisch, Seiler 教授方の研究室を所長 Frisch 教授の案内を受けて視る。遺傳學、細胞學、動物の習性(魚類、甲蟲類、蟻等)に就き試験しつゝあり

2. Deutsch Museum:—

自然科學の研究、實地の應用、且機械の發達等、細大漏さず順次整然と陳列し有る、恐らく他に比類なるべし。伊太利の Museum に美術品の陳列の多きに反し獨逸の Museum に自然科學工業的器具機械陳列多きは興味ある對照なりと言ふべし

すべての最新科學發明の陳列ありと言ふ本 Museum にも、氣象學の Section に「ソーラリメーター」は見出し難かりき

(o) Wien (Austria) 29/x

有名なる Biologische Versuchsanstalt, H. Przibram 教授訪問

Pa-dova 會議に面接しありたれば町重に實驗室を案内しつゝ全部硝子室なる恒温恒濕装置は有名にして光線の影響、神經球除去の發育に及す影響、再生力試驗遺傳試驗、其の他を見る、更に Steinach 氏の有名なる生殖腺移植の Secondary sexual character 及性的本能、生殖腺の發達等に及す試驗標本に就き Physiologische Abteilung の室に

Assistant Heinrich Kuhn 氏の説明を受け、Polygamous sexual life (♀♀♀♂♂) と稱する形質に及す影響を試験し、Hormon の試験も行ひつゝ有る如し

(p) Brunn or Brno (Czechoslovakia) 31/x

1. Mendel's Monument

遺傳學 Mendel Monument = Mendel's Platz に諸君紀念撮影を行ひ、遺傳試驗を行ひ、5と1と言ふ寺院の Museum を見る Mendel の居室、寢室、使用せし顯微鏡、遺傳試驗記録帳、天文學研究の望遠鏡、手紙、寫眞等の陳列あり幸の裏庭の式敵にも足らぬ狭地にて此の大實驗を完成せし偉人の努力を偲び佇立之を久しうす

2. Zoologische Institute

3. Institute der Pflanzen Physiologie

前者には Prof. Jean Zaitzel 氏の

Tyreoid gland の添食試驗(昆蟲の發育) Assistant Dr. Teyrovsky 氏の鳥類の記憶力に關する研究等をきく、後者には Prof. V. Uehli 氏の案内にて新築中の研究室(恒温室五室)を見る Assistant Dr. Fl. Manavek 氏は日本より Cz 國に學術報告を送らざることを不平を言ふて居られし事も興なりき。同國の新興國(新獨立國)となりし喜を以て總ての方面に舊組織を打破して新組織とせんとする光明の輝を認む。同助手は米國に一ヶ年留學したりとて、流暢なる米國式英語にて話されたれば大いに助かりたり、英國式英語は殆んど解らず。寧ろ獨逸語の文字通の發音の方解し易きは先輩諸氏より話されしと全く同様なり

(q) Prague (or Praha) (Czechoslovakia) 1/x

1. Institute der Pflanzen Physiologie der Charls University

2. Institute der Anthropologie und zoologie

前者に Prof. Dr. Brozek 氏を訪し長期間從事せし Mendel's Monument の遺傳學的、學的業績の説明を聞く同氏には Padova の會議にて面會し有れば甚可重に説明案内し下されたり。Preparat 等澤山示され且「ラジウム」の細胞分裂核の行動に及す影響等の美事なる Preparat を示されたり。更に後者教室にて Janda 教授の Experimental zoology の Regeneration の試験の話 Anthropological の人間の頭骸骨の研究陳列等を見る。當國は Anthropopol 等は相當に進歩せるが如きも

専門外の他、教室の學長、部長又は研究者に紹介案内の勞を借しまさるる學者的態度の心持良く感ぜらる。以上

1930年11月6日

伯林の客舎に於て

松村 季美

奈良縣便り

近畿支部は京都府滋賀縣奈良縣及和歌山縣を包括する大所帯なので隅から隅まで支部員の動靜を求むることは甚だ至難だ。それで各縣毎に通信員を設置して蠶絲業に關聯したことを御報告したいと思ふ。

○田附由次郎君(蠶五) 田附君は蠶史研究で名高し福嶋支部長田附一郎氏の實弟第五期生中でも有名な勉勵家だ。君を本縣蠶業教育者として迎へ得たことは吾々として誠に肩身が廣いやうな氣持がする。

君は君の長身偉大な体格に相應な御令聞との間に九歳を頭に四人の後継者を擁して居られる(前任の中根君も子福者だつた)趣味としては園藝で初段に六七目と言ふ處學校では一番強いのだそうなお式田定千代君(蠶五) 昨年春都合により職を辭し郷里磯城郡川東村に悠々自適して居られる。同君の祖父佐平氏は篤農家として著名な方で現在でもその村に式田山と言ふ名稱が残つて居る。

○櫻井卓三君(絲十一) (舊姓橋爪) 櫻井君は實に温厚篤實な君子だ。蠶業試験場備付檢定所に勤務して居られるが藤井技師のもとに事實上の主任として備取引上に一大光明をもちたらさむものと研鑽中。この櫻井の奥様が長男を安産されたとか大満悦の休だ。

○藤井料(絲五) 同君は目下縣廳と備付檢定所と駐持で相當多忙らしいが持前のすう／＼さを發揮して曲りなりにも形づけて居る。奈良縣へ來てからもう五年恩給には後二ヶ年だと月日の經つのを數へて計り居る。何遍數へて見ても一日が二日になりもすまいが人毎に言ひふらしては指を折る。菩提心が出て來たためだらう。

○又奈良縣の出身者には山梨縣農會技師吉川誠彦氏がある。同氏の先考は宇陀西郷と言はれた程の傑物で今にその事蹟を口にすると多くの君も何れ近しいには歸郷されて先考の遺鉢を次いで貰いたいものと同郷人と共に希望する。

吉川君の親戚で且つ母校に勤務して居られた樋口壽夫人も奈良縣の人目下備付檢定所に勤務し藤井櫻井兩君と共に上田を語つて居る。

蠶一の玉木勝彰君も奈良に籍を持つて郡山中學校に通つたものだからな茨城縣の桑園技師船後勇平君も本縣人だ令兄は生駒で醫院を開業して居られる。それから式田定千代君(蠶五)山邊吉郎君(絲六)上田和男君(紡六)が居られる。山邊君は目下堺市で材木商に従事、大に商才を發揮して居られるとの噂だ、君の柔道初段も役立つことがあるだらうと想像して居る。

現在在學山の本縣人は二名だその中

吉川君は中根君の秘蔵弟子である。奈良縣出身の同窓生は量に於ては誠に夥々たるものだが實に於ては有爲の人材ばかりだ。奈良縣蠶業のためにこれ等の方々の活躍される時が待たれる。(飛鳥河畔にて 寧男)

千代の松原便り

上田の母校を離れ、東北の仙臺近くの蠶業學校に五ヶ年を過し、當地に來てからまた四ヶ年になるから卒業後凡そ一昔の年月が流れた。

上田時代にはあんな呑氣坊だつた僕が、しかも卒業後は田舎の先生になりすましてゐた僕が、學問にこころざし九州くんだりを決行しやうと殊勝な(?)心懸になつたのは自分ながら不思議な程である。

東北生れの僕は福岡へくるのに博多驛で下りると言ふことすら此處へくる少し前まで知らなかつた位福岡は縁遠いものであつた。

聞くところによると、福岡市の中央を流れて海に注ぐ那珂川といふ河があるが、この河を界にして西方を福岡、東方を博多と稱へ、鹿兒島本線のステーションは博多の方に在るので博多驛と名づけてゐるさうである。

最近、日本エアラインの重要點として遽かに名高くなつた名鳥エアポートを右に眺めて、福岡市に近づくあたり、汽車は博多灣に沿ふた青松白砂の中を縫ふやうにして走る、廳が松林の中に近代的な建物が點在してゐる、これが農、工、法、文の各

學部の建物であり、この松原は有名な千代の松原と謂はるゝもので、この邊一帶の勝景は他にその類を見ない程である。

思へば、小學校から大學を卒へるまでは、少くとも十七年以上費すことになるが、この長い年月を費し、果して何を學び、何を識り、何を待たであらう、法律學、經濟學、農學、其他多くの自然科學を學んだ、そして其學び得たことによつて、事物を凡べて究理的に觀察せんとする神經は發達したであらうけれどもより深い眞髓に觸れんとすれば、如何に不可解のこのみが多いかを知る。

だが、この不可能があつてこそ、學問の生命は無限に存続するであらう例へば蠶について考へて見ても、この蠶一匹のため過去に於ても現在に於いても如何に多くの學者がこの不可解を解かんと、努力を拂ひ、尙拂ひつゝあるであらうがまだ不可解が残されてゐるのである。

僕は蠶とは餘程縁が深いとみえて随分久しく親しんでゐる、ゆゑに蠶について初めて専門的知識を學んだ上田の環境は蠶とともに何時も懐しく感ぜられる。

淺間山の噴煙! 千曲川の清流! アルプス連峯の雄姿! これらの大自然の美はどんなにか深く胸裡に印象づけられてゐることであらう。かくの如き詩の國、繪の國に育てられたる我同窓生がたがひに親密なるは當然のことであらねばならぬ。

僕が最近まだ數回の卒業生しか出してゐない某高等農林學校の同窓會報に「我が同窓會は母校と連絡をはかり、同窓生お互に力を合はし我が會を發展せしめねばならぬ、上田蠶絲専門學校や盛岡高等農林學校の卒業生が全國に亘つてあの目醒しい活動隆盛を來たしてゐるのは、主として同窓會の秩序ある組織的活動による」との意味の記事を見て我が上田の同窓會が社會的に如何なる地位にあり、如何なる活動をなしたつゝあるか窺ひ知るとともに喜悅と誇らしさのために胸の高鳴るを禁じ得なかつた。

さて、我が同窓會が今日に到るまでには勿論學校當局の宜しき指導があつたと共に、幾多の先輩諸兄の血みどろな努力の跡を偲ばねばならぬこれと同時に邁りゆく現代社會から遅れぬやう不斷の努力を要するものと痛感するものである。

僕が當地で時々逢ふ同窓生には最近まで長らく縣廳に勤めてゐた藤勝四郎氏、同氏は當縣蠶業試驗場へ轉じこんどは大いに技術的手腕を發揮しやうとしてゐる。

又おなじ試驗場の中田太郎氏は試験部主任とし、優良品種育成に精進しかねて大學院時代からの蠶の發生學的研究を續けつゝ例のごとき元氣振りである。

蠶種製造家の安仲動氏は郷里の黒土村で堅實主義の下に優良蠶種を造り一ヶ年の産額一萬枚以上は、この不況に拘らず何等廣告宣傳することなしに全部賣切れ、なほ注文に應ぜられないといふ豪勢である。

九大の方は大學創設以來、田中義麿教授の下に蠶の遺傳研究をしてゐた松野正一氏去つて後は、尾藤省三氏

坂田武氏それから僕と三人のみとなつた。尾藤氏は目下農藝化學三年に在學中であるが矢張り蠶に關係せる研究を重ね、氏には卒業と就職と幸福のスポーツホームが待つてゐる。同氏の卒業後は當學部に上田出での學生は絶えることになるから明春はどしどし來學するやう希望してやまない。坂田氏と僕は養蠶學教室にゐて、殆ど一年中實驗遺傳學材料用蠶を取扱つてゐる、只今年度第五回目の蠶兒が三紙中である。けれども一般農家が今時分養蠶をやつてゐる譯ではない、當教室には合理的の蠶室と、冷蔵桑葉や溫室栽培の桑などがあるので冬期でも飼育が出来るのである。

近世、絲價の暴落は斯業者をして悲況のどん底に陥らしめた、しかしそれはひとり蠶絲業のみでなく他の生産業者も等しく悩んでゐる問題であるから忍ばねばならぬだらう、やがて春の慈雨に恵まれ順路をたどる日も遠くはあるまいと思ふから。

——五、十二、十三——

柏倉 豊吉

南林孝三——松下改めて南林、おとなしい。

佐田彌亮——一名佐久のあに、こ異性に恵まれてゐるやうなぬないやうな顔をしてゐるが、その實惠まれ過ぎて困つてゐるのだといふ評判。何だかしきりに嬉しうな顔を見せる何事かあるかも知れない。

東京小風景

唐木田藤五郎——千軍万馬を往來してゐるといふ相を、多角多面の顔に刻んで、絶えず微笑を湛えてゐる。物語りたげに雄辯神經が時々動く。酒や女に用事はないが、かうした集りそのものが愉快だといつた様子である。

山本岩三郎——むつとり落ちついで下つてゐる。岡泰助(絲六)氏の經營。

針塚先生——部屋の中央部と思はれる地位に門下生に取りまかれてうれしうに坐つてゐる。方々から盃が飛んで來る少し顔が赤らんでゐる。

八木誠政——新婚の夢にやはらかに包まれてゐる様子がはつきりわかる。令夫人は小兒科の女醫であると自ら御披露に及ぶ。同窓生には無料診察を契約。「よろしく願ひます」と方々でいつてゐるのが聞える。

佐藤國一——善良といふ顔でここに笑つてゐる。

桑原與四左衛門——古い名に禍されてゐるが、その實元氣旺盛の若武者、健康美百パーセント。

南林孝三——松下改めて南林、おとなしい。

佐田彌亮——一名佐久のあに、こ異性に恵まれてゐるやうなぬないやうな顔をしてゐるが、その實惠まれ過ぎて困つてゐるのだといふ評判。何だかしきりに嬉しうな顔を見せる何事かあるかも知れない。

唐木田藤五郎——千軍万馬を往來してゐるといふ相を、多角多面の顔に刻んで、絶えず微笑を湛えてゐる。物語りたげに雄辯神經が時々動く。酒や女に用事はないが、かうした集りそのものが愉快だといつた様子である。

山本岩三郎——むつとり落ちついで

てゐる。酔つたらしい顔を見せない。だが、だいぶ赤味を帯びてゐるのは争はれない。

白澤 幹——支那から歸つて間もないといふが、別にそれらしい様子は見えない。若いものを相手に愉快さうにやつてゐる。よほど廻つたらしい。

永井勝未——いくらでも飲んでやうといつた顔。時々ごたごたこねる。美しいので何でも遠慮なしにかまえてごたを飛ばしさうな顔をしてゐる。さては物騒。

原田兵衛——針塚先生のすぐ右に座をしめて、好物のものをうるほしてゐる。が然し、まだこれでは足らぬといつた様子が見える。時々例の飾り氣のない語調でぼつぼつ話してゐる。美しいのが酒をつぎに来ても別に心にとめぬらしい。

大塚精一——よつぽどいけさうな顔をしてゐるが、さあ、これからだらう。

富岡 秀——新婚の夢が、スピリット以上に強く働いてゐるらしい。

竹内孝三——シャンな妹さんを持つてゐるといふので評判だがそれらしい顔を見せない。みなが羨ましがるといけなからだらう。

田口敏夫——可愛い子供の様に輝いた目。その目で方々を見廻しながら静かに飲んでゐる。

内藤良雄——好男子で女に百パーセント持てる顔だ。女難の相も又百パーセントだといつて

ゐるものもあるから御注意肝要。スピリットも相當いけるらしい。まづは目出たい。

野崎 清——部屋中を活動し廻つてゐる。賑やかなこと。賑やかなこと。

永井 榮——さてはかくれたる豪傑、さあどの位いけるか。

森田三郎——東京支部長。スマートな紳士。酒量はどうか。

小口一枝——女性のやうな名前だがその實さうでない。口數が少ない。誰も知らぬまにほんのり顔を櫻色にしてゐる。

浅見安治——善良な若者、これからだ。

新庄哲二郎——でつぷり太つて来た。おそらくうまいものを澤山食つてゐるだらうとの評判。酒も戲談も不得手らしいが、さて女はどうか。

中嶋 暹——そろそろ俺も見習うかなといつた顔をしてゐるが今のところ未だおとなしい。

武井光雄——元氣ものだが、今日は世話女房。どうも致し方がない。

岡 泰助——万世軒の主人公。時々卓をたたいて、ところかまはずまくしたててゐるが、善良さうなふくよかな相をしてゐる。

確水 茂——こいつ、まだ未知数の、その外美しいの數名 (一九三〇・二・二〇) 確水 記

年賀状に就て

在干葉 高 島 生

年賀郵便の合理化とやらで、千曲時報編輯部の發案に依り、時報誌上に年賀廣告を掲載して、徒勞を節約すると共に、年賀郵便の能率を百%以上に擧げたいとの企は、相當の共鳴者を得て、延人員百三十九名の廣告が一月號に載つた。お蔭で時報の収入がザツト百二十圓あつた譯で不景氣の折柄ボロ儲けをしたものだが、併し發案者の所謂「とかく虚禮に流れる傾向のある」年賀状を、幾分でも之に依つて矯正する事が出来たであらうか。私は寧ろ此年賀廣告位虚禮のものはないと思つて居る。……と言つた處で斯く謂ふ私も廣告を申込んだ一人であるが、素より此計畫を是なりと信じての事ではなく、折角の提案に對して敬意を表した迄の事である。そこで來年の事もあるから、此際私の考を述べて大方の批判を乞ひ、尙年賀状に就ての雜感を書いてみたいと思ふ。

○ 一休新聞雜誌等に掲載する廣告の類は、一般大衆を相手とするものである。特定の人々を對照とするものではないと思ふ。だから年賀廣告のやうなものは、社會的に地位のある人が、その公人としての立場から、社會大衆に對して挨拶する意味か、商人の宣傳か、乃至は賣名者流の自己紹介の場合に多いのであつて、自己の親しき特定の人々に對しては、決して之を以て禮を盡したもとは

言へない。洋行に際しての見送りに對する謝意、死亡廣告、會葬御禮、火事見舞御禮等の類に於て、「取込の際、御尊名伺ひ洩れあるやも知れず」と云ふ場合、新聞廣告を利用する事は往々あるが、斯くの如きは已むを得ざる事情に出でたものとして恕する事も出来ようけれど、年賀廣告を出してあるからと言つて、特定の知友に對する年賀状を廢し、又來狀に對して答禮を缺くと云ふ事は、餘りに自分勝手なやり口ではあるまいか。若し之で済むものとしたら、この廣告こそ「虚禮」である。

れた年賀廣告に依り會員全般に年賀状を出したのと同じ事になります」と言ふ蟲の良さ。之を以て徒勞節約能率増進と心得られるなら、私には更に經濟的な名案がある。それは毎年刊行される名簿の表紙裏かどこかに、「謹賀新年」と印刷して、之を元旦に届くやうに發送する事だ。刊行時期に依つては、「暑中御見舞」兼「謹賀新年」としたら一層便利だ。「ミイラ取ミイラになる」と云ふがもとく年賀状を虚禮だのへチマダの言つて詮議だてすれば、その對策も結局虚禮となるのが落ちである。

○ 然り、年賀状の交換は虚禮とも言へよう。觀やうに依つては世事一切虚禮である。併し又觀やうに依つてはその虚禮らしい中にも一種の情味が漂つて居るのではあるまいか。平素無沙汰に過して居る知友同志が、年一回の年賀状の交換に依つて、互の消息を知り、長く交際を續けてゆく事は、決して無意味な事ではないそれを虚禮とか何とか云つて付けよるとするのは、「今日は！」と言ふ挨拶に對して、「今日どうしたと云うんだ」と理窟を言ふやうなものである。私の知人に「年賀状絶對廢止論者があつて、誰に對しても自分から出さないのは勿論、答禮も絶對にしない方針にした處、十年かゝつて漸く近年は殆ど誰からも年賀状が來なくなつたさうであるが、斯うまで徹底して來ると又面白い。

○ 年賀状の性質は、勿論迎春の慶びを述べ合ふ事にあるが、併し實用價値から云ふならば、自分が相手方に

對して持つ敬意の表徴と、交誼の希望と、相互の消息を知り合ふ事とにある。よく「彼奴は年賀状一本よこさないクセニ、頼み事のある時ばかりは云々」と癩に觸る者があり、又議員選挙に年賀状を貰つた事を光榮として、その候補者に投票する者もある位であるから、一片の年賀葉書もなか／＼忽には出来ない譯である。そこで年賀状の文案であるが、長上向、友人向、目下向と色々あるから、萬人向に印刷するにはアツカリ「謹賀新年」として置けばよいけれ共、併しこれでは餘りにアツケない氣もする。

私の一番好きな年賀状は、前年に於けるその人の消息——假令大病したとか、結婚したとか、子供を儲けたとか、何處へ旅行したとか、何々で忙しかつたとか、更に望ましいのは精神生活の方面までも知らせてあるものである。和歌俳句の類に所懐を詠んだものも興味しく、風雅なる篆刻は、その人の趣味の程も偲ばれて嬉しい。(尤もこれは年々同一のものでは嫌味があるし、又近頃はゴム製のセットが賣りにあるから、コンナものでは却つて安ボク見える) 洋装の妻君と同列の寫眞をコロタイプにしたものをよこす人もあるが、これには少々あてられる。餘白に特に肉筆で何かを書き添へて来るのはとても懐かしいものである。數百通来る年賀状の事であるから、六號活字で葉書の全面にベタ一面に長文句を並べ立てられても困るから、動靜所感のやうなものは成るべく簡潔に書つて欲しい。

○ 年賀状に對しては、先方が旅館商店等の廣告的のものでない限り、目下の者に對しても必ず答禮すべきが禮である。他人から挨拶されて黙つて居る筈はあるまい。併し先手を打たれたからと云つて、態々「旅行不在中の爲」とか、「年越の風邪にて臥床中の爲」とか言譯して答禮するのは、細工が見えずいて却つて可笑しい。又おくれ序とあつて、一月末頃「寒中御見舞」を出す人もあるが、何故男らしく「御早々と賀状を賜はり有難く……」と挨拶する事が出来ないのか、私の知人に、自分から出すだけ出して置いて、あとの分に對しては、「年賀御答禮」と印刷したものを出す事にして居る人があつたが、之もアツカリして居てよい。

○ 別途にアドレス・ブックを整理して置かない人は、年賀状をその儘代用して翌年迄保管して置くのが普通である。之に對して封書や開封や名刺の賀状はよしそれが丁寧なやり方であるにしても、貰つた方にとつては整理上却つて不便である。又住所なしのものや、連名(宛)のものにも困る。「服喪中に付年末年始の禮を缺く」場合は、誰が死んだのか書き添へてあれば事情が分つて便利であるが、其處まで氣のきいた人は滅多にないやうだ。又この種の挨拶は、郵便局で「年賀郵便」の取扱を開始する前でないといふ、「服喪中」の人に年賀を述べる事になつて甚不都合である。

○ 都合主義から來たのであつて、必ずしも民衆の便利主義から來たのではないけれ共、兎も角よい思付である。そして之を利用する者も相當多い筈であるが、それでも年末年始の郵便物は一時に殺到して、至急を要する普通郵便がおくれ勝て困る。年賀状は全然無用の長物とは言はない迄も之を交換する爲に全國各處の郵便局の澤山な人達に、年頭も正月もソツチ除けに、碌々夜の目も寝ずに働いて貰はなくちやならぬ程重要な事柄とは思へぬし、之が爲他に不便を來すといつては、何とか改善せねばならぬ。之に就て甲府中學校の江口校長が一法を提案して居る。それは――

○ 年賀状は一般に止めて仕舞つて、例へば自分の誕生日とか、何かの事業に着手した日とか、少し甘い處では結婚記念日とか云ふ如き、人々特殊の日を擇んで、銘々相當に趣向を凝らした文句でも使つて、互に挨拶状を出すやうな風にやり代へよう云ふのである。斯うすれば現在澤山な年賀状を交換し合つて、殆ど讀みもしない連中でも、日々受取る新案挨拶状は、一二通か多くて四五通に過ぎまいから、多少泌々讀んで知人を偲ぶ餘裕もあらうと云ふもの、而して一方郵便局では年末年頭に集中し來つた賀状を工合よく年内のいろ／＼な日に分配する事になるから、決して今のやうな混雑は惹き起さず済む筈である。而して江口氏は大正十二年以來自分の誕生日をその日に當て、今も尙實行して居られるが、私も此説に非常に共鳴するものである。

○ 最後一言したい事は、年賀状の宛先の問題である。吾々の知友の多くはサラリーマンであるから、宛先には勤務場所と住所との二途ある譯であるが、松の内は大底お休みであるし、勤務場所には他人宛の年賀状と一緒に配達されるから、之をヨリ分けるのが大仕事である。私の居る縣廳なんかでは、數萬通の中からヨリ分けるのだから、折角元旦の配達も、自分の手に入るのは御用始めの日(四日)がせいぜいである。之は誰も同じやうな事情にある事に思ふから、年賀状は必ず住所宛とする事に申合せたいものである。それには同窓會員名簿に、勤務先と住所の二欄を設け、その異動は滞滞なく本部に報告して、之を千曲時報に發表する必要がある。(住所の必要は他に理由あれど省く)

○ 以上長々と年賀状に就ての雜感をもらしたが、此機會を利用して一言お断りして置きたい事がある。私は本年時報誌上に年賀廣告を出した。従つてその中台せに従ひ、母校並に同窓關係の方々に對しては一通の年賀状も出さなかつた。來賀二百餘通に對し御答禮を略した事は、曩の主張の手前矛盾の嫌ひがあるけれど來年は繰返さないつもりであるから今年の處は特に御容赦を願ひたい。

短信いろいろ

丁抹にて 松村季美
風寒き丁抹に來まして早くも六日

を經ました、丁抹人の親切はかねて聞いて居ましたがその親切さは全く想像以上であります、農學校を經營してゐるエンル・フィンガア氏の家に二泊して親しく農家の様子も見ました。組合の様子、學校の狀態も解りました、丁抹の今日あるは教育の方法、精神にあると思はれます。(八木宛)

オスローより 松村季美
北の國の景色を有名なる藝術家によつて御紹介致します (J. Munthe の書いた繪) 南歐とこと變り北歐には自然そのまゝの色と型と味とがあると思ひます、
イブセン、ピョルンソン以來この地方には文藝熱が盛んの様であります、イブセン全集等美しく店頭を飾つて居ます、(森山宛)

養蠶業の震災被害 淺井春夫
……震災地帯の本縣下田方、賀茂駿東三郡及び沼津地方に於いては養蠶業が盛んに營まれ従つて其損害高も甚大に有之候、被害の最も多き桑園は陥没その他にて激甚の被害を受けしもの六百餘町歩、輕微の被害なりしもの九百餘町歩にて全体の約七割に相當致し候、養蠶家の中に於て明年の飼育を憂慮されるものは全壊家屋一千四百八戸、半壊家屋二千七百七十七戸合計四千八百八十五戸に及びその他蠶具の破壊高約八萬圓に有之候。
目下一般に右の復興や共同養蠶飼育場の設置等に相努め居り候…… (林宛)

故高橋青七先生弔慰金報告

- 金五拾錢也 西田勇三郎 荻野上風 松野正一 片岡清治郎 安部正和 日野光平 淺野清志 鈴木雄七 水城孝勇 森本為之助 山崎孝壽 居相泰一 町田正直 藤原卓之 矢島良雄 高山裕 吉田隆雄 山本辰五郎 田附卯一郎 川嶋甲一 小川惠治 中澤勝也 廣井俊一 原田種龜 池田正五郎 市川恕平 坂田正贊 沼田周藏 福田鑛之助 藤崎 貞包 中島文雄 高木三治 中嶋靜太郎 齋藤菊雄 鶴田定平 後藤幸一 小林國造 津野善衛 永田平 長澤深見 永田善衛 大池彰 好士泰造 後藤仙彌 酒井末吉 降旗仙彌 岩瀬義夫 竹內真喜雄 堀忠太郎 荻原幸胤 依田彌亮 浦生俊興 倉澤美徳 松岡 久保田松藏 古越光明 兒玉信尊 菅原三郎

故向山隆福氏弔慰金報告

- 古川俊之 岸勝也 安孫子文彌 後藤政之 宮入誠一 黒澤製袋彦 太田正治 内田幸成 正木章三 上原清夫 矢澤茂登一 小川靜吉 廣瀬清四郎 中嶋茂司 上林多兵衛 大井學 小林 繁 金四圓也 中嶋 茂 金五圓也 佐藤尙雄 久保田嘉一郎 戸倉惣兵衛 田村三郎 大熊市治郎 濱井嘉夫 清水達太郎 唐澤正平 岡部康之 工藤二三 古東幹太

住所移動及訂正

- 野澤泰治 鈴木鍊一 中根真一 齋藤一 中田太郎 大田慎一郎 岩本市郎 月比野一夫 計合 金壹百拾壹圓也 死亡通知葉書代其他雜 六圓拾五錢 差引遺族贈呈料 壹百四圓八拾五錢 昭和六年二月一日 上田蠶糸專門學校同窓會